

自分の住んでいた場所を離れたことで、逆に自分の
住んでいた場所の魅力にもっと気づけたかな

語り手 田村 陽菜乃(高校十六期生 早稲田大学国際教養学部)

聞き手 木村 彩夢

*

高校時代

―立命館守山高校を選んだ理由、きっかけとありますか？

立守を選んだ理由が二つあって。まず一つ目が探究活動をやりたくて。私のお姉ちゃんも立守に通って、それで色々勉強の話とか聞いて面白そうやなって思ったのが一つで。もう一つが吹奏楽部に座って演奏する座奏っていうのがあって、それに力を入れて。あと定期演奏会が結構華やかな感じで、それがいいなと思って。この二つの理由で志望した記憶があります。

―吹奏楽部では何の楽器を担当してたんですか？

楽器はピッコロっていう。フルートわかるかな。

―はい。

フルートの半分の大きさのピッコロっていう高い音の楽器担当してて、で役職が演奏長っていう、音楽面のリーダーみたいな感じで中学生と高校生合同で合奏する時に前で指揮振ったりとか、みんなにアドバイスしたりとか、みんなの前に立って引っぱっていくっていうことが多い立場だったかなっていう感じです。

―へえー。吹部に入って得られたものってありますか？

挑戦する勇氣、行動力が身につけられたかなっていうのを今考えて思っ。演奏長っていう立場上、先生と大会でどの曲を演奏するかとか、曲をどう作り上げていくかみたいな話をする事が多くて。そういう時に自分なりに色々アイデア出したり、先生に提案したりとかそういう自ら動く姿勢みたいなのはすごい身についたかなって思います。で、高校二年生の時に幼稚園で演奏会がしたいと思っ。て企画して、守山市の偉いさんと協力して実現させたことがあっ

て。そこからちよつと守山市の方との繋がりも作らせていただい。て。それもあって守山市でも本番の回数が増えたり。あと、高三の時に吹奏楽部としてシカゴに行った時があつて。その時もいろいろ守山市の方にお世話になったりとかして、大人の方との関わりも吹部の中で身につけられた力だったかなって思います。

―吹部ってすごく忙しいと思うんですけど、高校生活や勉強はどうでしたか？

私、家が結構遠くて、京都から通って。だから毎日通学に一時間半弱かけて。電車の中で課題やったりとか、テスト勉強したりっていうのが多かったかなって感じです。でも別に課題を当たり前にちゃんと出して、テスト前は部活がなくなるから、テスト前はちゃんと勉強に集中してっていう当たり前のことを確実に一個ずつやっていくっていう意識を大切にしていたかなって感じ。

―しつかり両立しててすごいです。ユネスコ委員会にも入っていらつしやったとか。

はい。

―どんな活動をしてたんですか？

ちよつとメモ見えていいですか

―はい。

ユネスコ委員会って今もまだ存在してますか？

―あ、あります。

よかつた。ユネスコ委員会がどういうものかっているのは。

―わかります。

オッケー。で、まずビジネスコンテストにいくつか出て。食べ物にSDGsを結びつけてアイデア考えてくださいっていうのに出たり、地域創生のアイデアを考えるのにも出て。で、私が高一の二月くらいにウクライナ侵攻が起こって、何かしたいと思っ。て金を提案したら、いいよって言うってくれはったからそれもやって。そつからウクライナ関係の取り組みが色々始まっていつ、ウクライナに住む若者たちと立守生のオンライン交流会とか、ウクライ

ナの現状について、田辺先生の知り合いのポーランド在住の方が講演会してくださったり、ウクライナの避難民の子供たちが描いた絵を守山市図書館で展示したりとか。そこからウクライナ関係の取り組みが多かった。

で、あとは立守の周りにある老人ホームの方とかにお声掛けして、メディアホールで高校生のバンド演奏とか吹部のアンサンブルをお届けするとか。そういう高齢者の方向けのコンサートみたいなのもユネスコの友達と協力してやりました。

—ユネスコは元々高校入る時に入る予定でしたか？

いや、ユネスコの存在は全然高校入る前知らなくて。四月の時点で知ったんですけど、その時は吹部の忙しさとかもわからなくて入れなくて。で、一年生の二期の始業式の日とかに、田辺先生がユネスコの紹介みたいなのをやらはって、それで入った。だから、高一の九月から入りました。

—吹部にユネスコ委員会って絶対大変でしたよね。

でも、ユネスコは定期的な集まりがあるっていうよりかは、クラッシュとかで情報が流れていて、やりたい人集まってくださいみたいな感じで。その集まったメンバーで日程調整して会ったりとかって感じだったから、割と柔軟なスケジューリングでできたから続けられたかなっていう感じです。ユネスコは結構みんないろんなタイミングで入ってる印象があつて是非入ってください。

—立守を志望した理由でもある探究活動ってどんなテーマでやっていたんですか？

探究活動は広く言うとか貧困問題っていうテーマを取り扱ってて、その中でも子供食堂の役割みたいなところにフォーカスして、自分の地元の子供食堂に行かせていただいて、最後一緒にプロジェクトをやりました。

—今も貧困問題を取り扱っているんですか？

去年までは貧困問題に興味があつて、高校で探究活動してたこともあつたし、日本に住むホームレスの人たちの支援とかに興味があ

つたんですけど、ちよつと最近あんまり興味が薄れてきているかもしれない感じですね。

—なるほど。

—まだまだこれから見つけていきたいですね。

—大学は立命館大学じゃなくて早稲田大学ですけど、きっかけとか行つてよかったことありますか？

三年生の夏休みまで部活やって、立命館大学に行くつもりでいたんやけど、親に早稲田見に行つてみない？って言われて、見に行つて。あと、英語がすごい好きで、早稲田の国際教養って英語にフォーカスした学部なら、英語も勉強できるしいかなと思って早稲田の国際教養を志望しました。

—英語力はもとある方だったとか。

いや、全然。学校での英語しかやってなくて、ECCも通ってないし、塾でも英語ほとんどやってないし、みたいな感じで。お母さんが学生の頃に塾で英語を教えるバイトをしてはって。だから、私が中学の英語につまずいた時にお母さんが助けてくれて、基礎をつまづくことなく乗り越えれたって感じです。あと、高校の英語の先生がめっちゃ好きやって自分的にそれがモチベーションだったの で、それでまたさらに英語頑張れるようになって今に至るって感じで。別にそんな特別なことは何もしないし、帰国子女とかでもない。

—先生の存在が大きかったですね。

はい。先生の存在は結構大きかったかな、自分の中で。

—そうなんですね。高校ではやっぱり英語が一番好きでしたか？

英語が一番好きでした。コミュニケーション英語って授業、今でもある？

—はい。

コミュニケーション英語も好きやったし、外国のネイティブの先生がやらはる授業も好きやったし、あと探究の授業も楽しかった。あと、三年生になったら、多分国際協力っていう授業が文系にある

と思うんやけど、それも楽しかった。A Pとかも三年になるとあるしね。

―話すこと自体にはもともと抵抗はなかったんですか？

もともと自分の性格的におしゃべりな性格だから、まず話すっていうことがすごい好きっていうのが前提としてあって。で、立守の英語の授業って文法とかよりも話す、プレゼンするとかが多いじゃないですか。

―はい。

だから、その方針と自分の性格がうまく相まって、私は常にアクティブに話せてた方やと思います。だけど、大学入ってから周りの人の英語のレベルが高くてミスしたらどうしようと思って話せなくなる時もあるんですけど、やっぱり気持ちが大事っていうか、伝えようとしたら相手も汲み取ろうとしてくれるから、勇気を出して何か話してみるとか、自分が話したいことメモしてから、それを組み合わせてながら話してみるとか、そういうのができたらちよつとずつ話せるようになるかなって思います。

大学生活

―大学受験はどうされたんですか？

私の時は、まず最初に校内選抜があつて。志望理由書を日本語で書いて出して、で校内選考通過して。早稲田に出す用の志望理由書を英語で書いて。あと英語の課題図書があつてそれを一冊読んで感想とかを自分の中でまとめといて、試験当日に早稲田まで行って英語の面接があつて。志望理由も英語で話すし、その本読んで思ったことも英語で話すみたいな感じ。志望理由書二つと英語の試験と課題図書。こんな感じ。

―ハードですね。

まあでも、受験で入ってる皆さんと比べるとまだ楽な方法で入らせてもらってる方かな(笑)。

―今大学で勉強してて将来の夢とか、学んでることどんなことがありますか？

国際教養学部は文理問わず幅広い授業とれるのが魅力で、学部長は宇宙学を専門とされてる教授なんやけど、私が取ってる授業は文系の授業ばかりで、文学の授業とか歴史の授業とか、人類学っていう人について研究する学問とか、ほんとにいろんなものとしての感じですよ。で、自分が将来やりたいことはまだあんま決まってるって、留学先で見つけたいい気持ちもあるんですけど、ソーシャルビジネスっていうのがあつて。聞いたことありますか。

―なんとなくは。

社会問題をビジネスで解決するっていうのをソーシャルビジネスっていうんですけど。例えばパキスタンに住んでる人たちが仕事がない。じゃあその人たちに機織りの仕事を渡します。で、その人たちが作った商品を世界各地に広げて、この人たちは仕事お金も得られて、世界中の人たちはその質の良い商品を選ぶみたいな。こういうパキスタンの人たちを救うといった社会問題に対してビジネスで対応するみたいなのをソーシャルビジネスっていうんですけど。それにすごい興味があつて、大学のサークルでもソーシャルビジネスについて勉強するサークルにも一個入って。で、将来そういうのに関わりたいいなっていうのはぼんやりあります。

―なるほど。国際問題や社会問題にいつ頃から興味を持ち始めたんですか？

小学校の時にボーイスカウトっていうのに入ってた。ボーイスカウトの時に、それこそ募金活動とかやってたんですよ。だから、なんか世界には困ってる人がたくさんいるんだっていうことを漠然とその時には思ってた。で、小学校の時も色々世界の問題とか勉強したりするじゃないですか。それでどんどん興味を持っていって。

で、立守に入る時点でも、探究活動でそういうことをしたいっていう思いがあったから。ボーイスカウトをきっかけに、どんどん興味を持つていった感じかなと思います。

—今特に関心のある国際問題って。

大学一年生の時カンボジアに行ったんですよ。それはカンボジアの子供たちに無料で音楽を届けるっていうボランティアのプロジェクトで、オーケストラの一員としてボランティアに参加したんですけど。その時に、カンボジアの衛生環境がよくなくて、お手洗いが水洗じゃなかったり、トイレットペーパーを使う習慣がなかったりみたいな。それってすごい問題だなと思って。

いわゆる途上国って言われる場所を先進国みたいにしないといけないのかはよくわかんないけど、でもその状況が良くないことも確かだから。発展途上国の人を助けるっていうのには興味ないので、貧困の部分なのか、衛生環境を整える部分なのか、具体的にどこにどんな風に関わって、どういう将来を作っていきたいのかっていうのはちよつとまだ見えてないかなって感じですよ。

—なるほど。大学の授業で一番楽しい授業って何ですか？

学部を関係なく取れるオープン科目っていうのがあって。ソーシヤルイノベーション・グローバルアジアっていう授業があって、それが楽しかったです。それは、七カ国の生徒がいる授業で。社会問題を解決する手法についてみんなで学んだ後に、実際にその興味のある社会問題一個取り上げて、解決の方法をグループワークで考えて最後プレゼンするみたいな感じの授業で。

—めっちゃ多様な空間ですね。

うんそう。多様な人がいたっていうのも面白かったし、勉強内容も面白かったし、印象に残ってる授業って感じです。

—多様な空間で過ごして印象的だったことありますか？

うーん。あんまりいい気づきじゃないかもしれないんですけど、ソーシヤルイノベーションのクラスで、私のグループはドイツ人とフランス人だったんですよ。フランス人って時間にルーズなんです。ほとんどの授業に毎回十分ぐらい遅刻してきて、でもちゃんと連絡はしてくれるんですよ。別にそれを誰かが責める雰囲気とかが特にあったわけでもなく。日本人って真面目だし、時間守るじやな

いですか。でもいいことやと思うんですけど、なんか別にこのぐらい緩くてもいいんだっていう。国による時間の感覚の違いみたいなのが見えたのは結構面白かったです。

—へえー。

あ、そう。私、寮も国際寮みたいなのに住んでるから、食堂とか周り見渡したらほんとに外国出身の人と日本人が混在してるような空間にいるんですよ。だから自分は外国人に対する嫌悪感みたいなのは全然なくて。

でも実家が京都の宇治市で、観光地ど真ん中に住んでるんですよ。それでちよつとマナーが悪い海外の人とかがいらっしやって、親は割とマイナスなイメージを持てるんだけど多くて。でもそれって日本人の感覚ではかかってるだけじゃない？みたいな。そう思うことが多くて、いい意味で日本人らしくないっていうかちよつと寛大、寛大になってるのかわかんないんですけど（笑）。その寛大な心を持てたのは、国際と早稲田とかの環境が大きいのかなって思ってます。

—やつぱり環境が変わると受け取り方も変わってくるんですね。

そうだと思います。あと、自分の地元の前より好きになった気がして。東京は、建物高くて人多いっていう感じで。でも私の住んでる辺りは、法律の関係で建物も低いし、歴史的な建物がいっぱいあったり。あと、すごい東京の人から京都って素敵なお場所だよねとか、修学旅行で行ったとか、京都弃って可愛いって素敵だねみたいな言われることが多くて。自分の住んでた場所を離れたことで、逆に自分の住んでた場所の魅力にもっと気づけたかなっていうのは思います。

—素敵ですね。

離れるからこそ気づけることってやつはあるんですね。他にありますか？

うーんと、家で勉強とかする時に、どうやって勉強に集中してましたか？

私も結構集中するの苦手です。携帯に関しては機内モードにしてベッドに埋めてます。で、集中するというアプリがあつて、自分でタイマー設定してそのタイマーが終了したら通知が来るアプリがあつて。高校の時はそれ使つてました。タイマーついてたら勉強しなつていう気持ちになれてやつてました。あとは、図書館行くとかスタバ行くとか、場所変えるのも大事かなつて思います。難しいですよ、集中するのつて。

—ほんとに難しいです。

時間経つのは早いですが、携帯つて。

—はい。勉強とかでモチベーションとか下がった時とかありました？

モチベーション下がった時はあつた。でも、モチベ上げる方法としては、自分の周りの友達が三年間勉強を真面目に頑張るタイプの人が多かったから、そういう人に影響を受けてたのが大きいかなつて思います。あとは、海外研修の選考前とかやつたら、今勉強しなかったら行けへんかもしれへんとか、そういうなんだろうね。先にある目標に向かって頑張つてたつていうのもあると思う。

—寮生活も初めてだったと思うんですけど、東京に一人で関西から行つて、どうでしたか？

ほんとに十八年間ずつと実家から通つて、初めて親元を離れるつてなつて。自分が住んでた寮はご飯が出る寮だったので、別に食べ物に関する心配とかはなかったんですけど、漠然とした生活の不安みたいなのはやつぱあつて。洗濯も自分でしないといけない、日曜日は寮のご飯が出ないから自分で作らないといけない、周りに知り合いが誰もいない、勉強もついていけないかわからない、みたいな感じで、とにかく全部が不安つて感じでした。で、周りの人の英語のレベルが高くて落ち込んだことはちょっとあつたし、あと立守の友達は大学でも大体立守の友達仲良くするじゃないですか。そういうのをインスタとかビブリアルとかで見ちゃつて。

自分は四月の最初一週間ぐらいは全然友達できなくて。みんなやつぱなんやろ、友達と大学生活を謳歌してんのに、私はまだ友達いないわみたいな感じで、ちょっと落ち込んだことはありました。

—どういう風に不安や落ち込みを乗り越えてきましたか？

英語力に関しては、嫌でも毎日英語に触れないといけないから徐々に徐々に成長していったかなつていう感じで。友達に関しては、その寮に住んでたし、国際教養は結構少人数授業が多かつたし、あと部活にも入ったから、一気に人の輪がばつと広がつてあんまりそう思うことはなくなつていった感じかな。でも、去年の秋ぐらいまでは立守が恋しくなることも結構あつて。

立守つて結構先生たちも割りと熱意溢れる人が多くて相談とかしやすい感じだったんですよ。でも別にそういう頼れる大人がいるわけでもないしみたいな感じで。立守恋しいムーブメントは去年の秋ぐらいまではありました。

—そうだったんですね。

今は、立守つていい学校だったなつていうのはすごい定期的に思うんですけど、戻りたいつていうのはあんま思わなくなりました。—さつきサークル二つつておつしやつていたと思うんですけど、どうです。

楽しいです。そのサークルは週に一回集まりがあつて、その時は、真面目に社会問題とかビジネスのこととかをお互いに勉強してる感じなんですけど。合宿みたいなのは多分イメージしてる大学生つて感じ。みんなで観光して、美味しいもの食べて、夜花火して、夜通しお話するみたいな感じですよ。楽しいです。

—大学生になるの楽しみになつてきました(笑)。

どの部活にしろサークルにしろ何かしらには絶対入つた方がいいと思います。やつぱ人の関わり増えるし、入つてなかったら結構暇に感じると思います。特に今高校生活は忙しいと思うから、何かしら入らないとなんか暇すぎてつまらないと。



右：語り手 田村 陽菜乃さん
左：聞き手 木村 彩夢

― 今一番挑戦したいことってありますか。
今一番直近であるのはやっぱり留学で、八月一八日からスウェーデンに一年間留学に行くんですけど、海外にそんな長く滞在するのも住むの初めてで、それが一番自分の挑戦したいことっていうか頑張りたいなって思ってることです。
― 一年間、頑張ってください！
ありがとうございます。頑張ります。

【感想】

今回のインタビューを通して、自らアクティブに動いていくことの大切さを痛感した。高校生活の中で与えられた環境や機会を待つではなく、自分から積極的に探し、挑戦する姿勢がその後の進路や学びにつながっていることが印象的だった。特に、探究活動やユネスコ活動、留学や寮生活など田村さんの一歩踏み出して行動した経験は、自身の可能性を大きく広げていると感じた。私自身も、これからの学校生活や進路を考える上で、チャンスを見逃さず主体的に取り組むことを意識したい。